

「弱者必勝の10ヶ条」③

1. 「弱者必勝の10ヶ条」の2～4条(心のスイッチ)

今回は、「弱者必勝の10ヶ条」のうち、2～4条

2. 弱者は、早朝の利益時間を作り出し、長時間喜働に徹すべし
(朝を制するものは人生を制する。12時間喜働は3倍必勝、14時間喜働は圧勝。
遊働一致の境涯を味わおう)
3. 弱者は、夕方時間を延長しても、その日の仕事はその日に済ますべし
(明日しようは、3日延ばし、一生延ばしとなる。一呼吸の今に燃えよう)
4. 弱者は、休日を研究や作戦計画、戦略日にあてるべし
(着眼大局、汗を流しただけでは片付かない仕事もある。時には知恵をしぼろう)

をとりあげます。2条は、朝のスタートの仕方であり、3条は、1日の終わり方、4条は、休日の過ごし方について書いてあります。経営者にとって、どれもが当たり前な事柄なのですが、意外に、耳に痛いと思う節があると思います。それぞれ「心のスイッチ」の入れ方に工夫が必要になります。

2. 「早朝の利益時間」

まず、2条の「早朝の利益時間」という点です。中小零細企業の方々でも、朝早く出社している方が多いのですが、始業までの時間の使い方に工夫がない場合が多いのです。バラバラに出社しているのでメリハリが利かないのです。雑談も重要な事ですが、それで終始するのではなく、9時始まりの会社なら、8時から30分間でも関係者が集まってコーヒーでも飲みながらミーティングを行う事で有意義な時間になります。(意外に近くの喫茶店でバラバラにコーヒーを飲んでいる)

ミーティングの議題は、昨日の日報報告について質疑や確認という事でも構わないし、あるいは、今日のスケジュールの確認でも良いと思うのです。前者は、本来なら前日の晩に済ましておくべきかもしれませんが、早朝に確認し合うことで「情報の共有化」が図れるという効果もあります。後者の今日のスケジュール確認を行う事で事前にアドバイスが出来るので、いわゆる「後出しジャンケン」という状態(後手)に陥ることを回避できます。

当社では、コーヒーを飲みながら、ニュースの話を織り交ぜて雑談しながら、各自の健康状態みたいなものを確認して、最後に、各自の仕事内容を確認するようにしています。ミーティングと言っても、朝からギスギスするのは考えものです。1日のスタートをスムーズにする為にこそ意義があつて、逆に、気分を悪くするような結果になっては逆効果なのです。15分程度ですが、各自のスケジュールを確認して「さあ、これから頑張ろう」と声を出し合って仕事にかかるようにしています。

3. 「その日の仕事はその日に済ますべし」

3条は「その日の仕事はその日に済ますべし」と書いています。「到達主義」とも言いますが、完了できるものを確実に完了することが重要なのです。「些事優先」という言葉がありますが、意外に、「些事」(手がければ、すぐに終るような事)を後回しにする方が多いのです。例えば、オーダーをしておくにしても、Faxやメールならば、相手が不在でも済ますことができるのです。あるいは、上司などへの報告も日報という手段だけでなく、口頭での報告によって、より詳しい「報連相」になり対策が素早くなるのです。このように、大きな仕事は、もちろんの事ですが「些事」と呼ばれる事柄を上手に終わらせることが重要なのです。

4. 「12時間喜働は3倍必勝」

毎日を「早朝から夜遅くまで」という企業戦士の働きを求められるのですが、私がサラリーマン時代、課長になる時に先輩から「マネージャーというものは、朝8時から晩8時まで、若い人と毎日付き合える気力と体力が重要だ」と教えられました。当時の流行言葉で「ハチハチサービス」があったのですが、まさに、この生活だったのです。「職場は上司の鏡」と言いますが、エネルギーなマネージャーと並の方とでは大きく組織効率が変わって来るのです。

右掲は、ランチェスターの第2法則を応用したもので、「12時間喜働は3倍必勝」ということを数式で示したものです。意外な事なのですが、8時間フルに仕事しているのと1時間ロスしているのでは、64:49で1.3倍もの差がつくのです。さらに、8時から8時というモー

ランチェスター第2法則

1. 8時から8時の場合

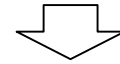
$$12時間 \cdot 12^2 = 144$$

2. 定時の場合

$$8時間 \cdot 8^2 = 64$$

3. 1時間ロスの場合

$$(8-1)^2 = 49$$



$$144:64 \div 2:1$$

$$144:49 \div 3:1$$

ーレツ型と比べると144:49とほぼ3倍の差がつくのです。これでは、確かに「勝ち組」に入れるのですが、その為には「喜働」がキーとなります。何もないのに付き合いで8時まで居残りするのでは、とても「喜働」とは言えず、かえってマイナスの効果しか働かないのです。「喜ぶ」とまでも行かずともストレスがない状態というのは、実際に、お客様からの要望に対応している事が最低限の基準と言えます。その為に「仕事量の確保」というのが会社や管理職の使命となるのです。ともかく、次から次へと仕事を与えることが重要なのです。

5. 「休日を研究や作戦計画、戦略日にあてるべし」

2条に「遊働一致の境涯を味わおう」とあるが、まさに「仕事人間」という事を言っているのが3条の「休日を研究や作戦計画、戦略日にあてるべし」なのです。「仕事も遊びも同じ」や「出勤日も休日も同じ」という世界なのです。最近の風潮では、かなり無理があるレベルですが、仮に1時間でも仕事のために使えないかという事になります。

「ブルーマンデー」という言葉がありますが、誰でも月曜日はリズムを取り戻すのに苦勞するものです。最近のように、曆的に3連休があるとなおさらです。若いうちは、休日を思い切りエンジョイするのはある種の「特権」と思いますが、月曜日の仕事に差しさわりのあるほどに「疲れる」のは避けたいものです。羽田空港が24時間化されて、金曜日の晩に海外に出て、月曜日の朝6時に羽田に帰って来て仕事に出るなどと言うのは、スケジュール的には可能かも知れないがサラリーマンのモラルに反するものと危惧しています。私は、日曜日の晩に十分な睡眠がとれるように心掛けるのが「サラリーマン道」ではないかと考えています。

【まとめ】

1. 心のスイッチ・オン
2. 早朝の利益時間は、コーヒー・ブレイクを兼ねたミーティングから始める
3. 「些事優先」・カンタン事を先延ばしにしない
4. 「喜働」の前提は「仕事量の確保」である
5. 休日は遊び過ぎないで少しは仕事への準備時間をとる

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryu.html> でご覧になれます！】